

集解庭園野徑處處多有或田圃之界多種之生苗葉如竹葉而細小深青柔厚似有微毛可作蔬茹一科數十枚攢簇團團直上可比蒿之茂莖赤或青亦有性最柔弱故將老時乾枯可爲帚野人呼稱草帚作帚則勝於藜作杖則劣於藜夏秋開黃白花結實最繁矣

〔毛吹草〕^三山城 蓐。蓐。 藪。 藪。 大和 蓐

〔三十二番職人歌合〕二十七番 右

捨やらぬ世をばいかにかすへは、き拂ふも庭の塵の身ながら

〔江戸總鹿子新增大全〕^七諸細工名物

神田ぼうき いにしへは神田にて作りしゆへ此名ある由今延寛は今戸端芝邊にて作るとい

えども猶神田ぼうきと云

帚用法

〔延喜式〕^{三十六}供奉年料中宮主殿准此

帚二百冊把月別廿把寮所備○中略 右起十一月一日迄來年十月卅日料

〔西宮記〕^{五月}六日幸武德殿

三府射如前左右門部衛士撤却西埒○註掃部寮以帚令合穴木工寮官人以丈尺正立球門

〔侍中群要〕^一上格子事

寛平小式云主殿頭以下擁帚拂清庭堀

〔古事記上〕故天若日子之妻下照比賣之哭聲與風響到天○中乃於其處作喪屋而○中鷺爲掃持

〔古事記傳〕^{十三}掃字を帚に用たる例は字書には見えねども波波伎は羽掃の意にて體用の差

のみなれば御國には古通用ひけむ萬葉十六にも玉掃スハキとかけり

〔枕草子〕^七なを世にめでたき物

りんじのまつりのおまへばかりの事は何ごとにかあらん、まがくもいとをかし○中かんもり